

**令和6年度 大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業
審査結果表**

大 学 名	埼玉大学	タイプ	I：地域等連携型
プ ロ グ ラ ム 名	「地域共創－ダイバーシティ課題解決－レジリエント社会研究」の三位一体による実践的な多文化共生教育の全学展開		
連 携 大 学 等	—		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、「地域共創－ダイバーシティ課題解決－レジリエント社会研究」という、現代の多様性に対する新たな視点を三位一体のテーマとして掲げ、そのテーマに基づく多文化共修プログラムを設定し、全学的・分野横断的なものとなるよう、「多文化共修センター」を設置し、学長のリーダーシップの基、関係組織との連携により、具体的な成果を上げるための効果的な体制が整えられている点が評価できる。その体制の中で進められる、多文化共修科目の拡充に向けた目標設定は意欲的なものであり、カリキュラムの配置についても、博士課程前期の偏っている現状を踏まえ、学部低学年向けの科目を集中的に拡充する方針となっており、課題を的確に把握した上での戦略的なアプローチを計画している点も評価できる。今後、COIL型教育と海外留学の相違を定量的に評価することができれば、さらなる魅力が高まるだろう。

また、地域との連携面においては、地域社会で「内なる国際化」が進むことで、移民問題等が発生していることに対して、日本と地域の伝統や慣習を守りつつも多様性と包摂性を軸にした社会づくりを行うというアプローチも優れており、今後の成果が期待される。

一方で、急激に多文化共修科目を拡大することに伴う、各種計画内容や数値目標については、実現可能性の面で課題が残る。科目数の伸びの割に、担当教員の増加は限られたものとなっており、教員の多様性についても、海外で学位を取得した日本人教員や女性教員の採用等を進めるなどといった、具体的な提案が不足しているため、更なる検討が望まれる。

また、協定校との関係が単なる留学プログラムに留まっているため、より積極的な学位プログラムを構築し、外国人留学生が積極的にキャンパスライフに参加できるような仕組みを進めるなど、全プログラム期間を通じて全学生数に占める外国人留学生の割合を向上させるような具体的な計画の検討が必要である。

最後に、今回選定された貴学においては、世界や地域の課題解決に資する人材を育成するため、多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動を、国内外の課題解決策の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出につなげていくことを強く要請する。